

2020年度 第3四半期 決算説明会

2021年2月3日

ブラザー工業株式会社

財務担当執行役員 伊藤 敏宏

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2020年度 第3四半期（10月-12月）実績

✓ 主にP&S事業、P&H事業が好調に推移し、大幅増益

・P&S事業:

在宅勤務向けSOHO製品への需要の継続に加え、消耗品の想定以上の回復により大幅増益

・P&H事業:

家庭用ミシンでの手作り需要が継続し、普及機を中心に販売が増加したことにより
大幅な増収増益

・マシナリー事業（産業機器）:

自動車・一般機械向けでの中国需要の回復により、大幅増収

・N&C事業:

店舗の時間短縮営業、業務用カラオケ機器の需要の落ち込みにより厳しい状況が続く

・ドミノ事業:

需要の緩やかな回復に伴い、C&M製品本体に加え、C&M・DPともに消耗品が堅調に推移

2020年度 第3四半期決算は、主にP&S事業、P&H事業が好調に推移し、前回公表時の想定を上回り、対前年で大幅な増益となりました。

【2020年度 第3四半期実績】

・P&S事業:

在宅勤務向けSOHO製品への需要の継続に加え、消耗品の想定以上の回復により大幅増益

・P&H事業:

家庭用ミシンでの手作り需要が継続し、普及機を中心に販売が増加したことにより、大幅な増収増益

・マシナリー事業（産業機器）:

自動車・一般向けでの中国需要の回復により、大幅増収

・N&C事業:

カラオケ店舗の時間短縮営業、業務用カラオケ機器の需要の落ち込みにより厳しい状況が続く

・ドミノ事業:

需要の緩やかな回復に伴い、C&M製品本体に加え、C&M・DPともに消耗品が堅調に推移

2020年度 通期業績予想

✓ **N&C事業における事業環境の悪化を見込むものの、主に第3四半期における想定を上回る業績の好調さを受け、通期連結業績予想を上方修正**

・P&S事業:

第3四半期における想定を上回る業績の好調さ、在宅勤務向け需要の継続によるSOHO製品本体の堅調な推移、および消耗品需要の回復を見込み上方修正

・P&H事業:

第3四半期における想定を上回る業績の好調さ、家庭用ミシンでの手作り需要の継続を見込み上方修正

・マシンリー事業（産業機器）:

自動車・一般機械向けの中国の需要の回復を見込み上方修正

・N&C事業:

新型コロナウイルス感染症再拡大による影響、店舗の減損費用も加わり、下方修正

2020年度 配当予想

- ・期末配当は未定とし、実績確定後に還元方針に基づき、配当額を確定、公表する

【2020年度の通期業績予想】

N&C事業における事業環境の悪化を見込むものの、主に第3四半期における想定を上回る業績の好調さを受け、通期連結業績予想を上方修正いたします。

・P&S事業:

第3四半期における想定を上回る業績の好調さ、在宅勤務向け需要の継続によるSOHO製品本体の堅調な推移、および消耗品需要の緩やかな回復を見込み上方修正

・P&H事業:

第3四半期における想定を上回る業績の好調さ、家庭用ミシンでの手作り需要の継続を見込み上方修正

・マシンリー事業（産業機器）:

自動車・一般機械向けの中国の需要の回復を見込み上方修正

・N&C事業:

新型コロナウイルス感染症再拡大による影響、店舗の減損費用も加わり、下方修正

【2020年度 配当予想】

・最近の業績動向等を踏まえ、通期連結業績予想を上方修正いたしました。欧米や日本における新型コロナウイルス感染症の再拡大などの影響により、最終的な業績は今回公表した予想に対して乖離する可能性があります。

このような状況を鑑み、当期の期末配当予想については現時点では未定とさせていただきます。当期の業績が確定した段階で改めて株主還元方針（配当性向35%）に基づき期末配当を確定し、公表させていただきます。

2020年度 第3四半期（10－12月期）業績

主にP&S事業、P&H事業が好調に推移し、大幅増益となる

単位：億円

	19Q3	20Q3	増減	増減率 () は為替影響 除く増減率
売上収益	1,664	1,774	110	6.6% (8.2%)
事業セグメント利益	183	314	130	71.1%
事業セグメント利益率	11.0%	17.7%		
その他の収益・費用	6	-10	-16	
営業利益	189	303	114	60.5%
営業利益率	11.4%	17.1%		
税引前利益	193	304	111	57.4%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	143	228	85	59.8%
USD	108.98	104.45		
EUR	120.65	124.41		

2020年度 第3四半期は、当初の想定を大幅に上回り、増収増益の決算となりました。

売上収益は、前年比 110 億円増収となる **1,774**億円 となりました。

利益面は、

事業セグメント利益は、130億円増の **314**億円

営業利益は、114億円増の **303**億円

親会社四半期利益は、85億円増の **228**億円 と大幅な増益となりました。

事業セグメント利益率は、約18%と高い水準となりました。

2020年度第3四半期 事業セグメント別実績



単位：億円

		19Q3	20Q3	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	1,039	1,092	53
	事業セグメント利益	146	243	97
	営業利益	151	242	92
パーソナル&ホーム	売上収益	116	161	45
	事業セグメント利益	14	41	27
	営業利益	16	40	24
マシナリー	売上収益	186	221	34
	事業セグメント利益	8	22	14
	営業利益	8	13	6
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	125	88	-37
	事業セグメント利益	8	-6	-15
	営業利益	8	-7	-15
ドミノ	売上収益	172	176	3
	事業セグメント利益	8	13	5
	営業利益	7	10	3
その他	売上収益	25	37	12
	事業セグメント利益	-0	2	2
	営業利益	0	4	4
合計	売上収益	1,664	1,774	110
	事業セグメント利益	183	314	130
	営業利益	189	303	114

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

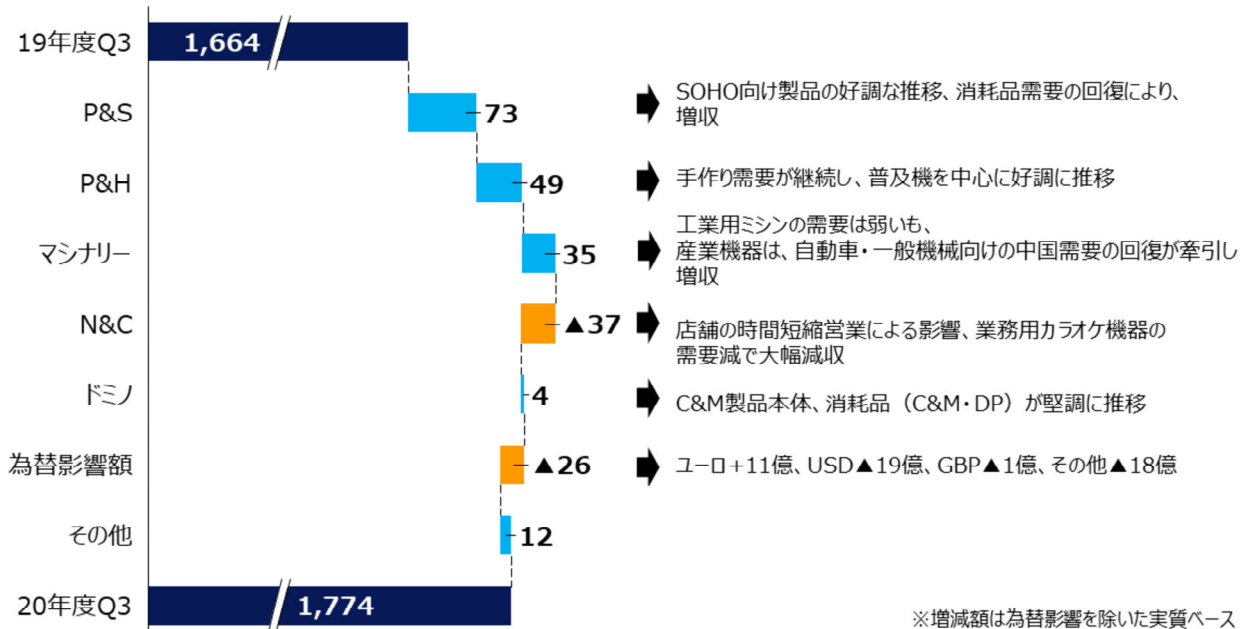
6

事業セグメントごとの業績一覧です。

2020年度第3四半期 売上収益の増減要因

P&S事業・P&H事業・マシンリー事業（産業機器）が 好調に推移し、増収となる

単位：億円



20年度 第3四半期の売上収益の増減要因です。

ご覧のとおりP&S事業、P&H事業、マシンリー事業が大きくプラス、N&C事業が大きくマイナスとなっているのがポイントです。

・P&S

SOHO向け製品の好調な推移が継続したこと、消耗品需要の回復により、増収となりました。

・P&H

家庭用ミシンでの手作り需要が継続し、普及機を中心に好調に推移したことで、大幅増収となりました。

・マシンリー

工業用ミシンの需要の弱さは継続も、産業機器は、自動車・一般機械向けの中国需要の回復が牽引し、増収となりました。

・N&C

店舗の時間短縮営業による影響、業務用カラオケの需要減により、大幅減収となりました。

・ドミノ

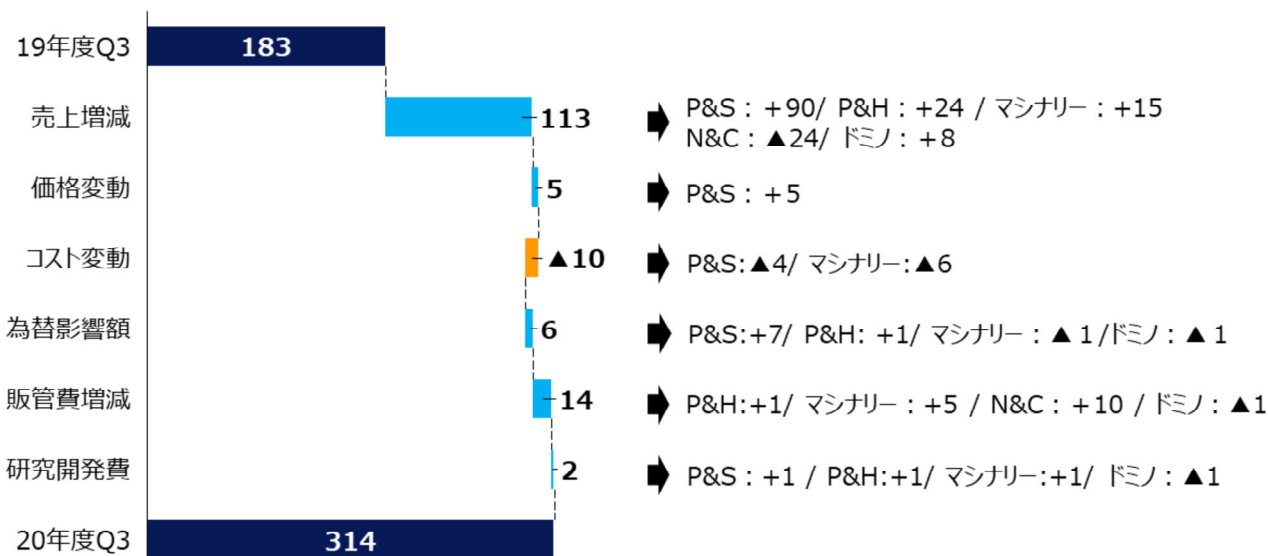
C&M製品本体、消耗品（C&M・DP）が堅調に推移し、増収となりました。

為替のマイナス影響が全社で26億円あるものの、全体としては110億円増収の**1,774**億円となりました。

2020年度第3四半期 事業セグメント利益の増減要因

主にP&S事業、P&H事業、マシンリー事業（産業機器）における粗利増に加えて販管費の抑制効果もあり、大幅増益となる

単位：億円



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

8

事業セグメント利益の増減要因です。主な要素についてコメントします。

・売上増減

P&S事業では、好調な需要を受けて、大幅増

・価格変動

主にP&Sによるものです。在庫不足のためプロモーションが実施できなかったことなどにより平均単価があがりました。

・コスト変動

主にマシンリー事業、P&S事業によるものです。

・為替影響

ほぼP&S事業によるものです。主にユーロ高による影響が利益にポジティブに効きました。

・販管費増減

N&C事業、マシンリー事業での経費削減効果がありました。
P&S事業での販管費は、Q3ではほぼ前年同等の水準です。

これらにより、2020年度 第3四半期の事業セグメント利益は、前期比プラス130億の**314億**となりました。

2020年度 第3四半期累計業績

Q3累計で、前年を上回る利益を確保

単位：億円

	19Q3 累計	20Q3 累計	増減	増減率 () は為替影響 除く増減率
売上収益	4,849	4,675	-174	-3.6% (-1.7%)
事業セグメント利益	545	633	88	16.2%
事業セグメント利益率	11.2%	13.5%		
その他の収益・費用	9	-5	-14	
営業利益	554	628	74	13.4%
営業利益率	11.4%	13.4%		
税引前利益	557	630	73	13.2%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	416	475	60	14.3%
USD	109.10	105.87		
EUR	121.46	122.30		

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

10

第3四半期の好調な推移により、2020年度 第3四半期累計期間は、増益の決算となりました。

売上収益は、前年比 174 億円減収となる **4,675**億円 となりました。

利益は、全ての段階利益において増益に転じており、

事業セグメント利益は、 88億円増の **633**億円
 営業利益は、 74億円増の **628**億円
 親会社四半期利益は、 60億円増の **475**億円 となりました。

2020年度Q3累計 事業セグメント別実績

単位：億円

	19Q3累計	20Q3累計	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	2,972	-100
	事業セグメント利益	458	68
	営業利益	462	68
パーソナル&ホーム	売上収益	315	99
	事業セグメント利益	24	58
	営業利益	25	56
マシナリー	売上収益	579	-19
	事業セグメント利益	16	12
	営業利益	16	2
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	377	-139
	事業セグメント利益	19	-53
	営業利益	19	-48
ドミノ	売上収益	508	-5
	事業セグメント利益	27	6
	営業利益	27	-2
その他	売上収益	99	-9
	事業セグメント利益	3	-3
	営業利益	7	-2
合計	売上収益	4,849	-174
	事業セグメント利益	545	88
	営業利益	554	74

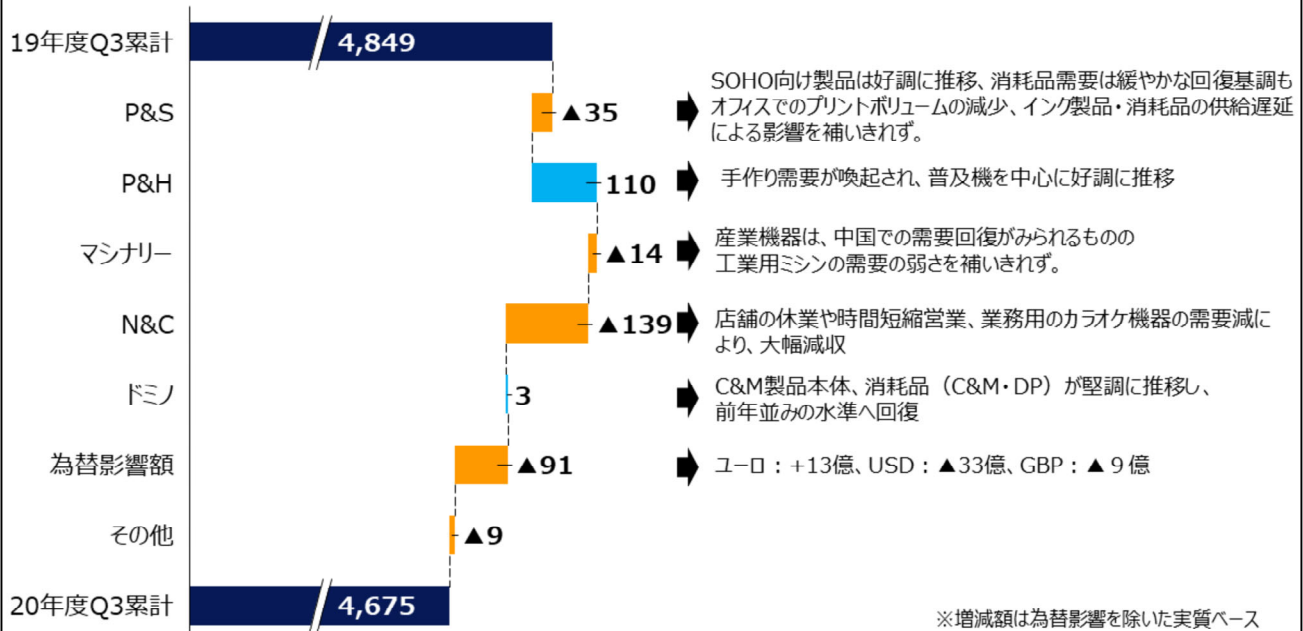
※セグメント間取引消去額は含めておりません。

事業セグメントごとの業績一覧です。

2020年度Q3累計 売上収益の増減要因

P&Hは好調も、N&Cの落ち込み、為替のマイナス影響を吸収できず減収

単位：億円



2020年度 第3四半期累計期間の増減要因です。

・P&S

SOHO向け製品は好調に推移し、消耗品需要も緩やかな回復基調も、オフィスでのプリントボリュームの減少、インク製品・消耗品の供給遅延による影響を補いきれずに減収

・P&H

家庭用マシンでの手作り需要が喚起され、普及機を中心に好調に推移し、大幅な増収

・マシナリー

産業機器は中国での需要回復がみられるものの、工業用ミシンの需要の弱さを補いきれず減収

・N&C

店舗の休業や時間短縮営業、業務用カラオケ機器の需要減により大幅減収

・ドミノ

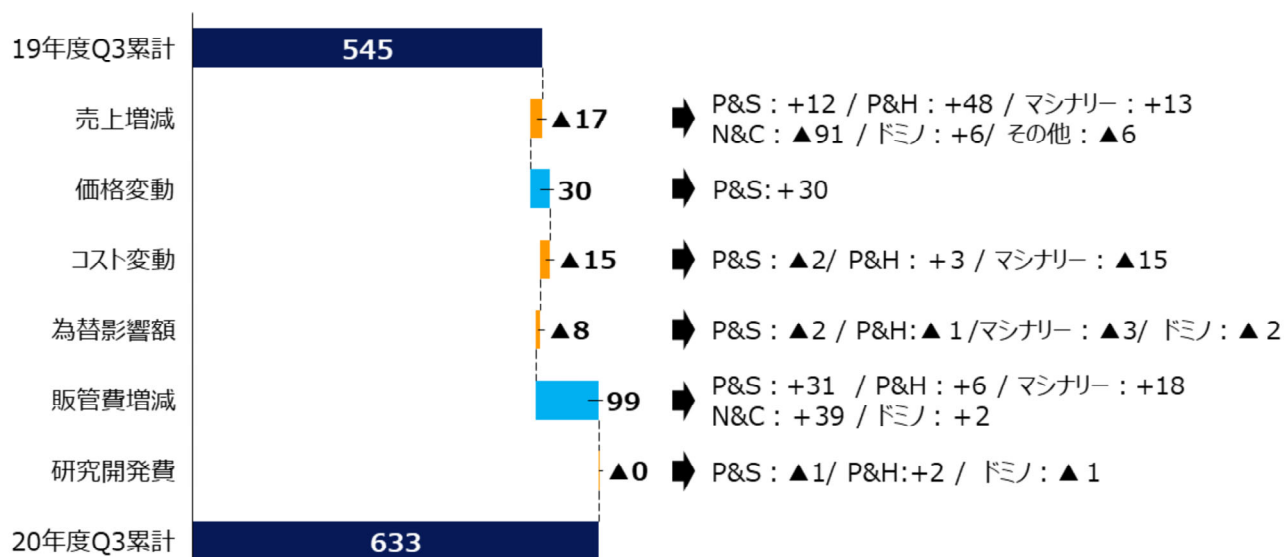
C&M製品本体、消耗品（C&M・DP）の消耗品が堅調に推移し、ほぼ前年並みの水準へ回復

加えて、為替のマイナス影響が全社で91億円あり、全体で174億円減収の **4,675** 億円となりました。

2020年度Q3累計 事業セグメント利益の増減要因

主にP&H事業の粗利増に加えて、
全事業における販管費の抑制効果により、増益となる

単位：億円



事業セグメント利益の増減要因です。

ご覧の通り、主にP&H事業の売上増、P&S事業の価格変動、全事業での販管費の抑制効果により、増益となりました。

これらの結果、
2020年度 第3四半期累計期間の事業セグメント利益は、前年比プラス88億円の633億円となりました。

2020年度 通期業績予想

N&C事業での事業環境の悪化を見込むものの、
年間を通じた販管費の減少、主に第3四半期の業績の好調さを受け、
通期連結業績予想を上方修正

単位：億円

	前回予想	20年度 今回予想	増減	増減率	19年度 実績	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	6,000	6,250	250	4.2%	6,373	-123	-1.9% (-0.1%)
事業セグメント利益	550	720	170	30.9%	669	51	7.6%
事業セグメント利益率	9.2%	11.5%			10.5%		
その他の収益・費用	-15	-35	-20		4	-39	
営業利益	535	685	150	28.0%	673	12	1.7%
営業利益率	8.9%	11.0%			10.6%		
税引前利益	530	680	150	28.3%	670	10	1.4%
親会社の所有者に帰属する当期利益	400	510	110	27.5%	496	14	2.9%
USD	106.35	105.25			109.10		
EUR	121.05	123.07			121.14		

通期の業績予想は、
主に第3四半期でのP&S事業、P&H事業における想定を上回る業績の好調さにより
下期の業績が前回予想を上回る見通しとなったことから、11月に公表した通期の連結業績予想を修正します。

2020年度通期の売上収益は、前回予想比 250 億円 増収となる **6,250**億円

利益は、
事業セグメント利益は、170 億円増の **720** 億円
営業利益は、150 億円増の **685** 億円
親会社当期利益は、110 億円増の **510** 億円

前回予想との比較では、大幅な上方修正となります。

2020年度通期 事業セグメント別予想



単位：億円

		前回予想	20年度予想	増減	19年度実績	20年度予想	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	3,628	3,837	209	3,907	3,837	-70
	事業セグメント利益	500	625	125	571	625	54
	営業利益	512	629	117	571	629	58
パーソナル&ホーム	売上収益	500	528	28	409	528	119
	事業セグメント利益	69	93	24	31	93	62
	営業利益	69	91	22	32	91	59
マシナリー	売上収益	722	768	46	748	768	20
	事業セグメント利益	4	30	26	7	30	23
	営業利益	-6	19	25	6	19	13
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	335	310	-25	491	310	-181
	事業セグメント利益	-48	-59	-11	21	-59	-80
	営業利益	-45	-85	-40	19	-85	-104
ドミノ	売上収益	659	672	13	675	672	-3
	事業セグメント利益	37	40	3	38	40	2
	営業利益	33	31	-2	39	31	-8
その他	売上収益	156	135	-21	142	135	-7
	事業セグメント利益	-12	-9	3	4	-9	-13
	営業利益	-28	0	28	9	0	-9
合計	売上収益	6,000	6,250	250	6,373	6,250	-123
	事業セグメント利益	550	720	170	669	720	51
	営業利益	535	685	150	673	685	12

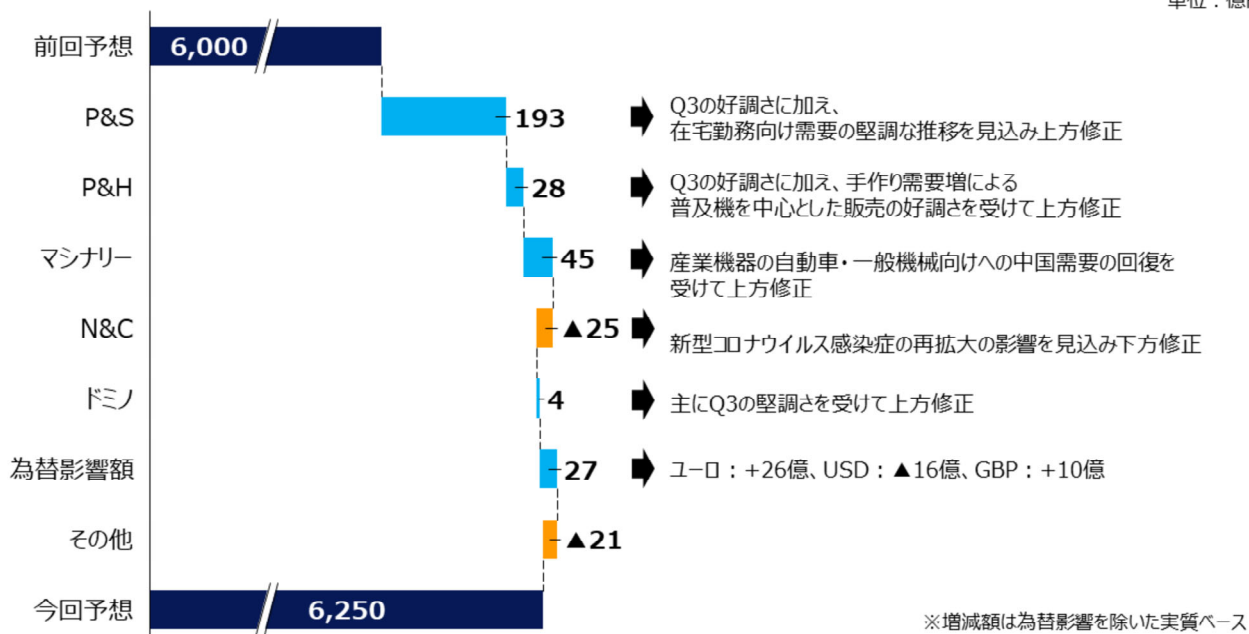
※セグメント間取引消去額は含めておりません。

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

事業セグメントごとの業績予想の一覧です。

N&C事業を除いた事業全てで、売上収益を上方修正

単位：億円



20年度通期の売上収益の 前回予想からの修正要因です。

・P&S

Q3での業績の好調さに加え、年間を通じての在宅勤務向け需要の堅調な推移を見込み、上方修正

・P&H

Q3での業績の好調さに加え、在宅時間が増えたことによる手作りへの需要が増加し、普及機を中心とした販売の好調さを受け、上方修正

・マシナリー

工業用ミシンの需要の回復には時間がかかる見込みも、産業機器の自動車・一般機械向けへの中国需要の回復を受けて上方修正

・N&C

新型コロナウイルス感染症再拡大の影響による需要の落ち込みを見込み下方修正

・ドミノ

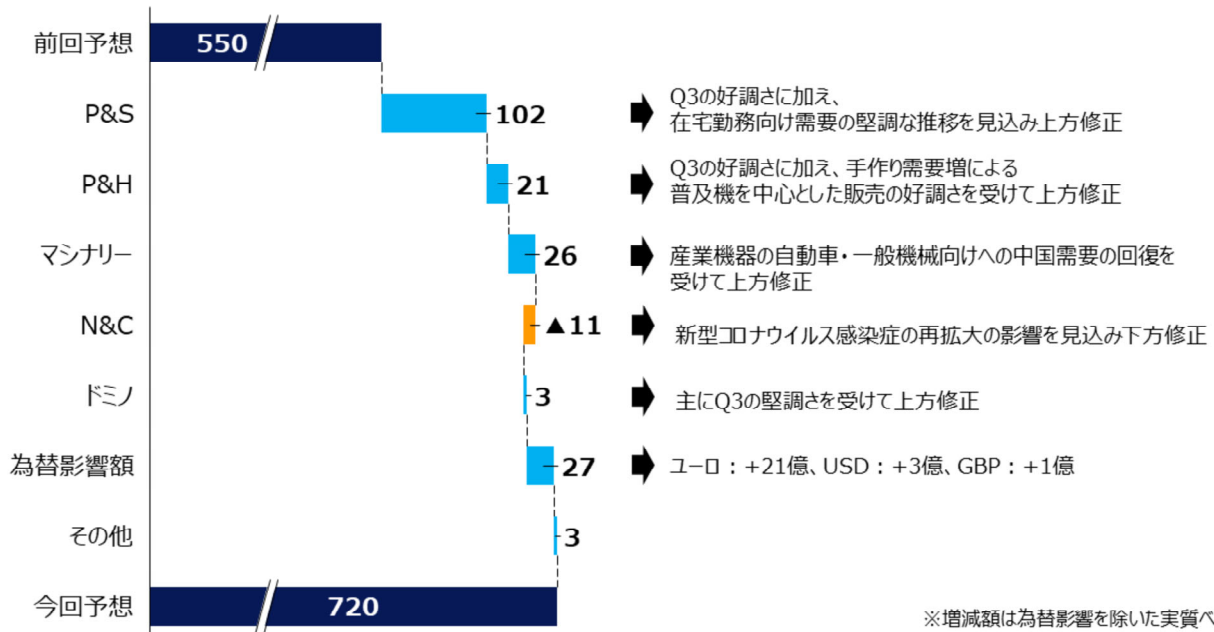
主にQ3での業績の堅調さを受けて上方修正

加えて、為替のポジティブ影響が全社で 27億円あり、前回予想比250億円引き上げの**6,250**億円を見込んでいます。

2020年度通期 事業セグメント利益予想の修正要因

主に第3四半期でのP&S事業の好調さを受け、利益見通しを引き上げ

単位：億円



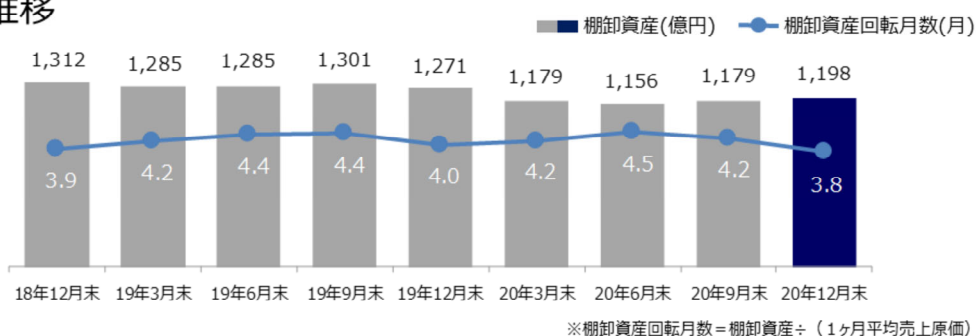
事業セグメント利益の増減要因です。

主に第3四半期でのP&S事業の好調さを受け、事業セグメント利益を上方修正します。

これらの結果、2020年度 通期の事業セグメント利益は、
前回予想から 170億円引き上げとなる**720億円**を見込んでいます。

	19年度末	20年度Q3	増減	
流動資産	4,088	4,488	401	ネット・キャッシュ 19年度末 : +614億円 20年度Q3末 : +1,100億円
現預金	1,684	2,054	370	
棚卸資産	1,179	1,198	20	
非流動資産	3,227	3,287	60	株主資本比率 19年度末 : 58.6% 20年度Q3末 : 61.3%
負債合計	2,863	2,846	-17	
有利子負債	1,070	953	-117	
株主資本	4,285	4,763	478	
総資産	7,315	7,775	461	

棚卸資産推移

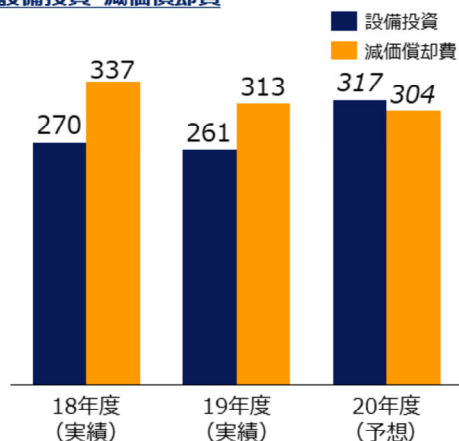


財政状態については、特に大きな変化はありません。

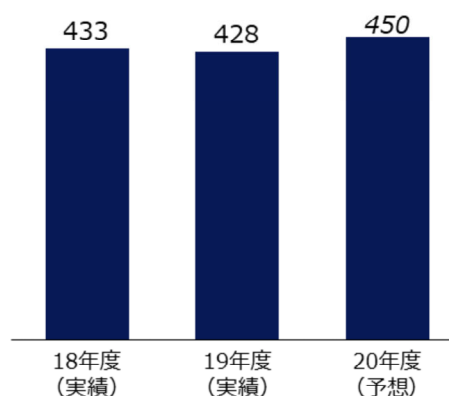
設備投資・減価償却費/研究開発費

単位：億円

設備投資・減価償却費



研究開発費



事業別設備投資内訳

	18年度	19年度	20年度
P&S	95	109	155
P&H	9	5	10
マシンリー	40	24	37
N&C	52	49	21
ドミノ	31	21	22
その他	44	52	72
計	270	261	317

事業別研究開発費内訳

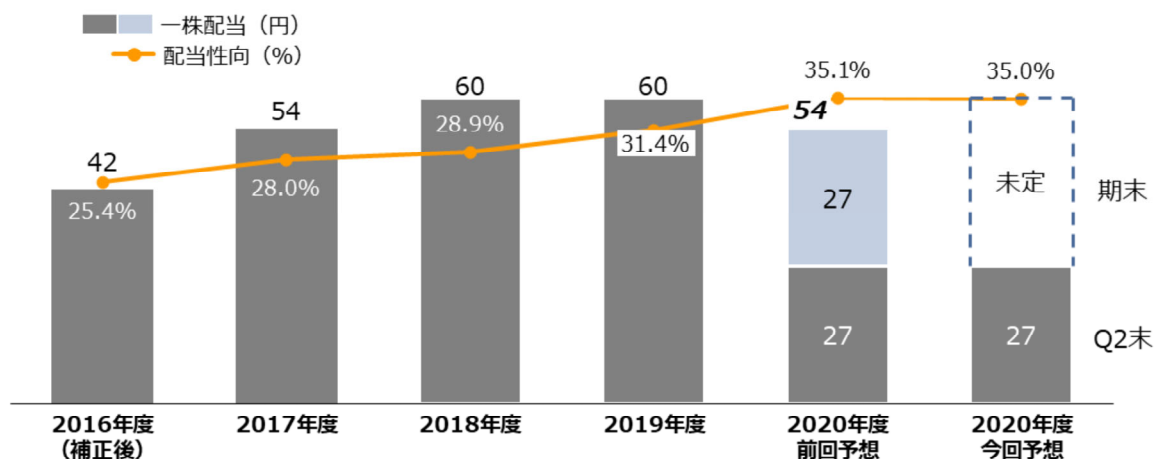
	18年度	19年度	20年度
P&S	290	277	291
P&H	22	22	23
マシンリー	50	54	57
N&C	5	9	10
ドミノ	38	38	40
その他	27	29	29
計	433	428	450

・設備投資、減価償却費、研究開発費とも、前回予想からの変化はありません。

期末配当は未定とし、業績確定後に還元方針に基づき、配当額を確定、公表する

最近の業績動向等を踏まえ、通期連結業績予想を上方修正いたしましたが、欧米や日本における新型コロナウイルス感染症の再拡大などの影響により、最終的な業績は今回公表した予想に対して乖離する可能性があります。

このような状況に鑑み、当期の期末配当予想については現時点では未定とさせていただき、当期の業績が確定した段階で改めて、株主還元方針（配当性向35%）に基づき、期末配当を確定し、公表させていただきます。



最近の業績動向等を踏まえ、通期連結業績予想を上方修正いたしましたが、欧米や日本における新型コロナウイルス感染症の再拡大などの影響により、最終的な業績は今回公表した予想に対して乖離する可能性があります。

このような状況に鑑み、当期の期末配当予想については現時点では未定とさせていただき、当期の業績が確定した段階で改めて株主還元方針（配当性向35%）に基づき期末配当を確定し、公表させていただきます。

セグメント業績概要

プリンティング&ソリューションズ事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

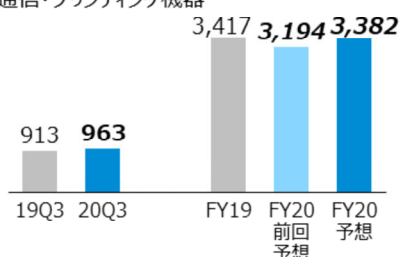
brother
at your side

単位：億円

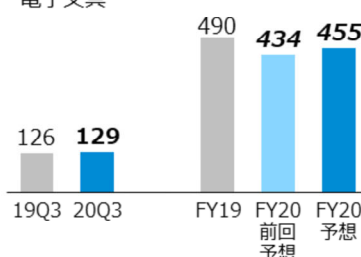
	19Q3	20Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	1,039	1,092	5.1%	7.0%	3,907	3,628	3,837	-1.8%	0.3%
通信・プリンティング機器	913	963	5.5%	7.4%	3,417	3,194	3,382	-1.0%	1.1%
米州	334	335	0.2%	6.2%	1,256	1,175	1,215	-3.3%	2.1%
欧州	300	323	7.6%	6.3%	1,133	1,041	1,135	0.2%	-0.6%
アジア他	153	177	15.7%	16.8%	591	585	618	4.5%	6.9%
日本	126	129	1.9%	1.9%	437	394	414	-5.3%	-5.3%
電子文具	126	129	2.1%	4.0%	490	434	455	-7.1%	-5.3%
米州	58	54	-7.4%	-1.9%	226	187	194	-14.4%	-10.0%
欧州	37	41	10.5%	8.1%	144	131	141	-2.2%	-3.9%
アジア他	20	21	5.0%	5.8%	72	66	68	-5.7%	-3.5%
日本	11	13	18.8%	18.8%	47	50	52	10.2%	10.2%
事業セグメント利益	146	243	66.9%	-	571	500	625	9.4%	-
営業利益	151	242	60.8%	-	571	512	629	10.2%	-

<売上収益>

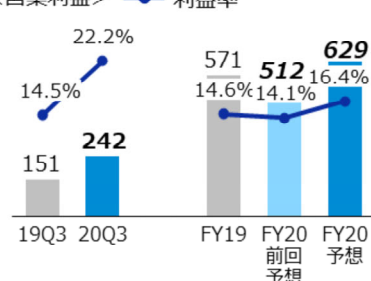
通信・プリンティング機器



電子文具



<営業利益> 利益率



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

23

P&S事業の第3四半期の売上収益は、**1,092**億円。現地通貨ベースでの伸び率は7.0%の増収となりました。

・通信・プリンティング機器

売上収益は**963**億円。現地通貨ベースでの伸び率は7.4%の増収となりました。

レーザー複合機・プリンター：

在宅勤務や在宅学習の機会が増加したことにより、SOHO向けの製品への需要は第3四半期においても堅調でした。SMB向け製品の需要も回復基調にあり、一部のSOHO向け製品の在庫不足を補完して、想定を若干上回りました。消耗品については、グローバルで好調に推移しました。

インクジェット複合機：

在宅勤務や在宅学習の機会の増加により需要は拡大し、インクジェット製品の供給遅延は回復傾向にあるものの、販売数量は、大幅に減少しました。一方で、インク消耗品は空輸対応の継続により、供給遅延はほぼ解消し、グローバルで好調に推移しました。

・電子文具

売上収益は**129**億円で、現地通貨ベースでの伸び率は4.0%の増収となりました。

日本はラベリング、ソリューションともに好調に推移しました。

その他の地域においても、第1四半期で落ち込んだ需要は回復基調にあります。

事業セグメント利益は、**243**億円。対前年でプラス66.9%の大幅な増益となりました。

SOHO向け製品本体の需要が第3四半期でも継続したことに加え、想定を上回る消耗品の好調さなどによるものです。

通期見通し：

好調に推移した第3四半期の業績を受けて、通期見通しを上方修正します。

レーザー（LBP）では、在宅勤務などへの新しい働き方の広がりにより、SOHO向けのプリンター・複合機の製品本体の需要の強さは、年間を通じて好調に推移することが見込まれます。

消耗品については、年間を通じ、需要は回復基調であるものの、オフィスでのプリントボリュームの減少により、SOHO・SMBともにコロナ前の水準までにはもどらないと見えています。

インクジェット（IJP）については、インク消耗品の供給不足はほぼ解消も、製品本体の供給不足は年間を通じて影響が続く見込みです。

プリンティング&ソリューションズ事業 主要製品別売上伸び率・構成比



	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	18通期	19通期	20通期 予想
LBP															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	1%	-3%	-5%	-17%	-9%	-8%	-7%	-2%	6%	19%	18%	-	-6%	-7%	16%
消耗品	1%	1%	-1%	-4%	2%	-6%	-2%	-3%	-18%	1%	0%	-	-1%	-2%	-4%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	2%	0%	-1%	-12%	-6%	-4%	-3%	2%	11%	22%	21%	-	-2%	-3%	20%
消耗品	1%	3%	2%	-1%	4%	-1%	3%	0%	-15%	2%	2%	-	1%	1%	-3%
IJP															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	-6%	-6%	2%	-6%	-2%	8%	-7%	-3%	-37%	-49%	-12%	-	-4%	-1%	-26%
消耗品	1%	-1%	-3%	-5%	1%	-2%	-8%	4%	-23%	-1%	9%	-	-2%	-2%	-6%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	-3%	-2%	6%	-1%	1%	13%	-4%	0%	-33%	-48%	-9%	-	-1%	2%	-23%
消耗品	1%	1%	0%	-2%	3%	3%	-5%	7%	-20%	-1%	10%	-	0%	2%	-5%
消耗品比率	58%	58%	57%	61%	60%	58%	57%	59%	55%	57%	55%	-	58%	58%	55%
販売台数伸び率（実績のみ/前年比）															
LBP	-1%	-8%	-7%	-16%	-13%	-4%	-2%	3%	12%	10%	6%	-	-8%	-5%	-
IJP	-1%	-2%	-1%	-4%	0%	13%	1%	7%	-39%	-57%	-24%	-	-2%	5%	-

© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

24

主要製品の売上伸び率・構成比です。

・売上伸び率（現地通貨ベース）

レーザー（LBP）の売上伸び率は、本体がプラス21%、消耗品はプラス2%となりました。

インクジェット（IJP）の売上伸び率は、製品本体の供給遅延による影響がQ3でも継続し、コロナ前までの水準にはもどらずマイナス9%となりました。IJPの消耗品は、19Q3の水準が低かった反動もあるものの、増産および空輸対応により在庫不足がほぼ解消されグローバルで好調に推移し、プラス10%となりました。

・販売台数伸び率：

レーザー（LBP）では、SOHO向け製品の販売が好調に推移し、プラス6%となりました。

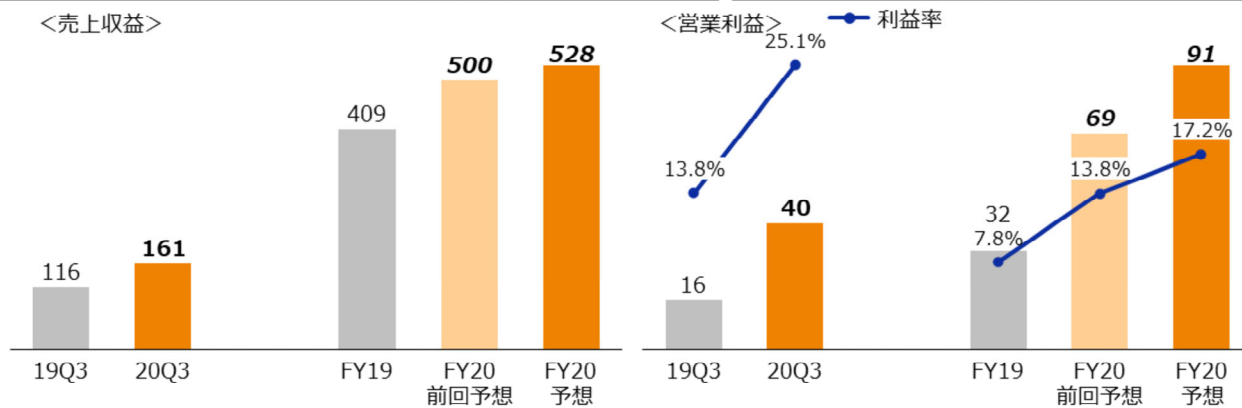
インクジェット（IJP）では製品本体の供給遅延による影響が継続し、マイナス24%となりました。

パーソナル&ホーム事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益



単位：億円

	19Q3	20Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	116	161	38.7%	42.2%	409	500	528	29.2%	32.9%
米州	63	84	33.7%	41.9%	223	261	272	21.8%	29.1%
欧州	34	48	39.4%	35.4%	108	138	154	42.4%	39.8%
アジア他	13	17	35.3%	37.4%	46	55	54	17.3%	20.2%
日本	7	12	89.5%	89.5%	32	47	49	54.2%	54.2%
事業セグメント利益	14	41	184.3%	-	31	69	93	197.2%	-
営業利益	16	40	151.9%	-	32	69	91	186.7%	-



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

25

P&H事業の第3四半期の売上収益は**161**億円、
現地通貨ベースの伸び率では、プラス42.2%の大幅な増収となりました。

家庭用ミシンは、コロナ影響を受けた各国でのロックダウンや、在宅勤務の機会の拡大により、
自宅で過ごす時間が増えたことで、手作り需要が継続し、普及機を中心にすべての地域において販売は好調に推移しました。

事業セグメント利益については、主に売上増による効果により、
前年同期の14億円に対して、27億円増の**41**億円となり、大幅な増益となりました。

通期については、第3四半期での好調な業績を受け、前回予想から上方修正し、大幅な増収増益となる見通しです。

マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

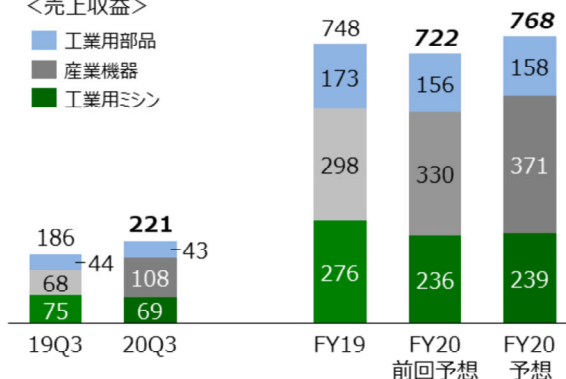
brother
at your side

単位：億円

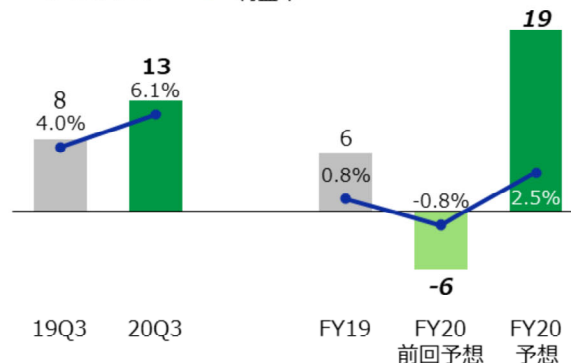
	19Q3	20Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	186	221	18.5%	18.8%	748	722	768	2.7%	3.5%
工業用ミシ	75	69	-7.0%	-5.7%	276	236	239	-13.5%	-12.1%
産業機器	68	108	58.7%	57.9%	298	330	371	24.5%	24.9%
工業用部品	44	43	-0.8%	-0.3%	173	156	158	-9.1%	-8.6%
事業セグメント利益	8	22	179.9%	-	7	4	30	332.0%	-
営業利益	8	13	79.5%	-	6	-6	19	210.1%	-

<売上収益>

■ 工業用部品
■ 産業機器
■ 工業用ミシ



<営業利益> ● 利益率



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

26

マシナリー事業は、第3四半期では売上、利益とも堅調に推移しました。

第3四半期の売上収益は、マシナリー事業全体で**221**億円。現地通貨ベースでの伸び率は、プラス18.8%の増収となりました。

売上収益の内訳は、
工業用ミシが**69**億円、産業機器が**108**億円、工業用部品が**43**億円となりました。

・工業用ミシ

工業用ミシセグメントでは、ガーメントプリンターおよび工業用ミシの2つの製品カテゴリーを扱っています。
ガーメントプリンターについては、ECサイトを利用するお客様からの引き合いが強く、需要拡大が続いたものの、
工業用ミシについては、設備投資需要の落ち込みが続き、事業全体で減収となりました。

・産業機器

自動車・一般機械向けの主に中国における需要回復により、増収となりました。

・工業用部品

需要は緩やかに回復し、ほぼ前年並みの水準となりました。

利益については、工業用ミシの設備投資需要の落ち込みは続いているものの、産業機器の増収による効果に加え、
販管費の削減に努めたことにより、事業セグメント利益は前年同期の8億円に対して、14億円増の**22**億円。

営業利益は、工業用ミシの生産体制見直しにともなう一時的な費用の発生があったものの、
ガーメントプリンター、産業機器の好調な推移により、前年同期の8億円に対して、6億円増の**13**億円と、
事業全体で大幅な増益となりました。

通期については、
工業用ミシ事業の回復には時間がかかる見込みであるものの、
産業機器での自動車・一般機械向けの中国の好調さが継続することを見込み、事業全体として前回予想から上方修正します。

マシナリー事業 地域別売上収益

brother
at your side

単位：億円

	19Q3	20Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	186	221	18.5%	18.8%	748	722	768	2.7%	3.5%
工業用ミシン	75	69	-7.0%	-5.7%	276	236	239	-13.5%	-12.1%
米州	21	22	6.3%	11.1%	70	79	85	20.9%	25.0%
欧州	18	17	-8.0%	-10.4%	68	57	57	-15.4%	-17.0%
アジア他	33	27	-18.6%	-17.5%	129	90	86	-33.3%	-31.8%
日本	2	3	50.6%	50.6%	9	10	11	15.5%	15.5%
産業機器	68	108	58.7%	57.9%	298	330	371	24.5%	24.9%
米州	3	5	103.5%	-	20	16	19	-6.1%	-
欧州	4	7	65.5%	-	21	18	17	-18.3%	-
アジア他	41	80	95.3%	-	168	243	278	66.0%	-
日本	20	16	-22.2%	-	89	54	57	-36.3%	-
工業用部品	44	43	-0.8%	-0.3%	173	156	158	-9.1%	-8.6%
米州	5	6	12.9%	17.8%	23	19	20	-13.3%	-10.3%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	5	6	30.7%	29.9%	18	18	19	6.0%	7.3%
日本	33	31	-7.4%	-7.4%	132	119	118	-10.4%	-10.4%

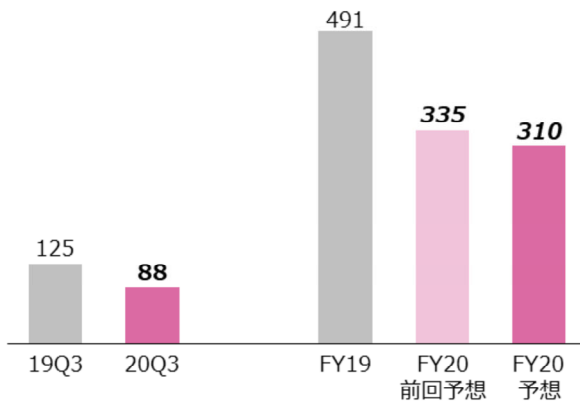
ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

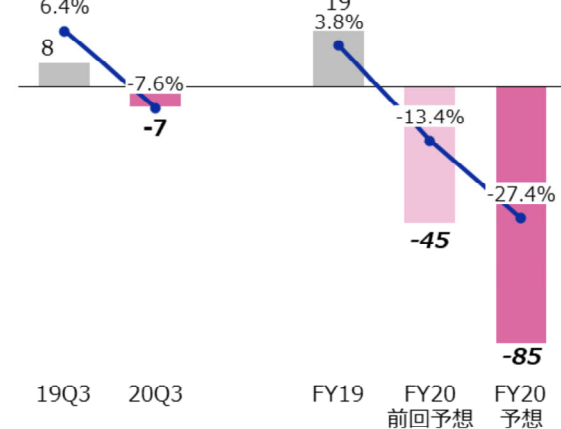
単位：億円

	19Q3	20Q3	増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率
売上収益	125	88	-29.8%	491	335	310	-36.9%
事業セグメント利益	8	-6	-	21	-48	-59	-
営業利益	8	-7	-	19	-45	-85	-

<売上収益>



<営業利益>



© 2021 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

28

N&C事業は、カラオケをとりまく環境の大きな変化により、厳しい経営環境が続いています。

第3四半期の売上収益は、**88**億円、対前年でマイナス29.8%の大幅な減収となりました。

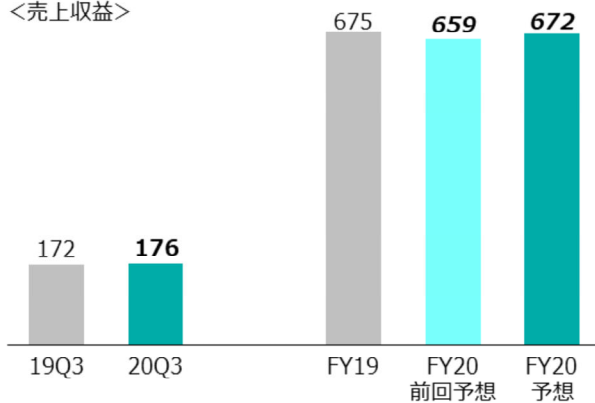
利益については、
販管費の削減を積極的に進めたものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大による店舗の時間短縮営業、
及び業務用カラオケ機器販売の落ち込みによる売上の減少による影響を補いきれず、
事業セグメント利益は **6**億円の赤字、営業利益は **7**億円の赤字になりました。

通期については、新型コロナウイルス感染症の再拡大による事業環境のさらなる悪化を受け、Q4の見通しを引き下げています。
加えて、店舗事業の採算性悪化にともなう固定資産の減損損失をQ4で計上する見込みとなったため、営業利益については、
前回予想からの大幅な引き下げとなります。

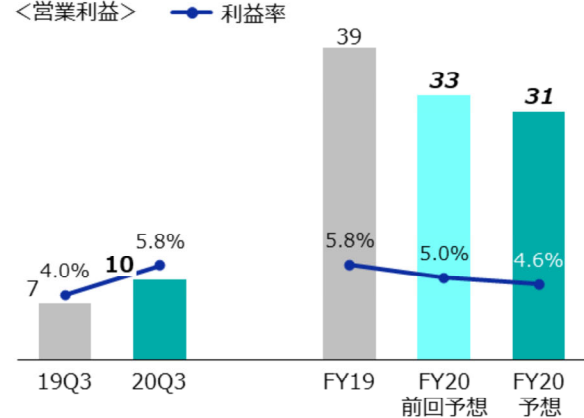
単位：億円

	19Q3	20Q3	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	172	176	1.9%	2.5%	675	659	672	-0.5%	1.2%
米州	42	44	4.8%	9.2%	165	166	170	3.4%	7.6%
欧州	82	80	-2.4%	-3.2%	329	305	311	-5.5%	-5.3%
アジア他	48	51	6.8%	6.8%	182	188	191	5.1%	7.4%
事業セグメント利益	8	13	68.3%	-	38	37	40	5.6%	-
営業利益	7	10	48.6%	-	39	33	31	-20.9%	-

<売上収益>



<営業利益> ● 利益率



ドミノ事業の第3四半期の売上収益は**176**億円、ポンドベースの伸び率では、前年比 **プラス2.5%**の増収となりました。

地域別では、アメリカ、アジアが好調であり、コロナ影響を受けて需要が低調であった欧州も回復基調にあります。

製品本体は、DPは需要は弱いものの、C&Mは堅調であり、消耗品は、C&M・DPともに堅調に推移しています。

事業セグメント利益については、増収の効果に加え、販管費の減少により、前年同期の8億円に対して、5億円増の**13**億円となり、増益となりました。

為替差損の影響があるものの、営業利益も前年同期の7億円に対して、3億円増の**10**億円となり、増益となりました。

通期については、主にQ3での業績の堅調さを受け、売上、事業セグメント利益については見通しを引き上げますが、営業利益については、為替差損の影響を織り込み、見通しを引き下げます。

brother
at your side